

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300263		
法人名	株式会社医療給食		
事業所名	グループホームオアシス大空 さくら		
所在地	愛知県名古屋市中区中切町5丁目28番地		
自己評価作成日	令和4年1月1日	評価結果市町村受理日	令和4年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2390300263-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>医療給食の栄養士さんに相談して利用者様にあった食事を提供できている。利用者様に食べたい物を聞き、医療給食と協力し、レクリエーションとして提供している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当ホームは、1ユニット7名であることで、職員が利用者一人ひとりに寄り添った支援が行われていることが特徴でもある。日常的に職員間で情報交換を行いながら、利用者一人ひとりに合わせた支援につなげる取り組みが行われている。職員間での情報共有を確実に行うために、ホームでは2か国語で申し送りノートへの記載が行われており、言語に課題がある職員にも支援方針を伝える工夫が行われている。運営法人で医療面にも対応している食事の提供事業が行われていることで、ホームの毎日の食事についても、運営法人から提供されている。利用者一人ひとりの健康状態にも合わせた細かな配慮が行われており、利用者の栄養面での支援にもつながっている。また、今年度からは、ホームの近隣に関連事業所(グループホームオアシス大河)が開設しており、連携した取り組みが行われている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を共有する事が今はまだできていない。	笑顔と思いやりを大切にした支援を目指すことを掲げた理念をつくっており、ホーム内への掲示が行われている。また、新たな取り組みとして理念を2か国語で表示しており、職員間での共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナが落ち着いたら交流したいと思っている。	感染症問題が続いていることで地域の方との交流が困難になっているが、ホームは地域の自治会に入り、可能な範囲で地域の方との交流が行われている。例年は、近隣の公営住宅の方との交流が行われており、行事への参加も行われている。	地域の方との交流が困難な状況が長期化していることもあるため、関連事業所とも連携しながら、可能な範囲で交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今回できていないので、職員と話し合い、地域貢献をしたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナのため、運営推進会議ができていない。	会議については、書面による実施が続いており、会議の関係者との交流も中断している状況が続いている。例年については、家族の参加が得られており、意見交換等の定期的な交流が行われている。	会議が中断している状況が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況や関連事業所とも連携しながら、会議の再開につながることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区役所や支援センターの人と情報交換はできている。	市担当部署とは、生活保護の方を通じた情報交換等が行われており、不明点等の解決につなげている。また、運営法人で食事の配達事業や障害者支援等の事業を実施していることもあり、運営法人を通じた関係機関との連携も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	リーダーで相談し他職員に説明して指導している。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、建物2階のフロアを開放する時間をつくる等、可能な範囲で自由に移動ができるような支援が行われている。また、日常的に言葉による拘束の防止等を職員に伝える取り組みも行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングで虐待の事を話し合い説明し、防止の徹底をしている。 1/8		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外国の方もいるので理解していない人もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の時に説明できている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今回はコロナでできていないが、運営推進会議でできたらと思っている。	現状、家族との交流が困難になっており、随時の連絡等を通じた意見交換等が行われている。ホームの共用空間に法人代表者の連絡先(携帯番号)を明示し、要望等を把握する取り組みも行われている。また、毎月の利用者毎の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングなどで職員の意見を聞くようにしている。	ホームでは、日常的に職員間で意見交換を行う時間をつくっており、職員間で情報を共有し、意見や提案等を出してもらい、ホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、随時の職員面談の機会もつくり、職員一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修を受けている。職員は少ないが受けてきた。職員が他職員に少しずつだが説明している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナが落ち着いたらしたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人1人1人と困っている時や不安な時は話を聞く事ができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に要望を聞き入居後、不安がないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	やりたい事できる事を見極めながら、できる事をやっていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	本人が不安になったり、困っている時、話を聞き、家族に相談できている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナのため今はできていない。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には個人で電話を開設し、家族や知人と電話で交流している方もあり、現状で可能な取り組みが行われている。また、家族との外出についても、身内の方の看取り支援に立ち会う等の機会がつけられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	もめることはあるが、スタッフが間に入り、孤立しないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃話をし希望を少しずつ聞いて、出来る限り意向にそえるようにしている。	職員間で利用者に関する意向等を共有するように2か国語で申し送りを行う工夫が行われており、職員間での共有につなげ、日常の支援への反映につなげている。また、利用者のアセスメントを実施し、定期的に意向等を確認する取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	なかなかスタッフ全員が把握することは難しいが、少しずつ全員が把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人やご家族の意向を聞いて、スタッフと意見を出し合い、介護計画を作成している。	介護計画は6か月毎に見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。支援内容を分かりやすい言葉で記載するように工夫しており、職員間で支援内容を共有し、3か月でのモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	わかりやすいように記録をわけて記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人の体調に合わせ、家族の意向も聞き、付き添いで受診できるようにしている。	協力医との定期的及び随時の連携が行われており、利用者の健康状態等に合わせた柔軟な支援が行われている。受診については、家族による対応とホームによる対応が行われている。また、ホームに看護師が勤務しており、医療面での支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	スタッフが気付いた事を看護師に報告して、必要ならば受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の担当者と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいる。	身体状態の重い方もホームでの生活を継続しており、利用者の中にはホームで最期を迎えた方もいる。運営法人の関連事業所に特養があることで、次の生活場所への案内も行われており、利用者及び家族の意向に合わせた支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	救命講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	今はコロナでできていなかったが、避難訓練を行いたいと思っている。	年2回の避難訓練を実施しており、通報装置の確認等の取り組みが行われている。新たに関連事業所が開設されたこともあり、通報装置の対応で連携する等、協力関係がつけられている。また、備蓄品については、ホームの倉庫内に確保が行われている。	地域の方との協力関係の取り組みについては、感染症問題が長期化する中で中断している状況でもある。併設している障害者支援事業所や関連事業所と連携を深める取り組みにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉がけや言葉の使い方には気を付けている。	基本理念でもある「笑顔と思いやり」を実践できるように、職員による利用者への対応や言葉遣い等に関する注意喚起等の機会もつくりながら、職員の意識向上につなげている。また、利用者のおしゃれにも気を配る等、利用者を尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	出来る限り働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1人1人の希望を聞き、体調を見ながら、ご自分のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1回、理美容さんに来ていただき、髪留めをしたり、おしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は一緒にできていないが、後片付けはしていただいている。	食事については、運営母体から提供を受けており、利用者の身体状態に合わせた食事形態や健康状態に合わせた健康食等の提供が行われている。また、毎日のおやつ作りの取り組みを継続しており、利用者もできることに参加する等、楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食べる量を見ながら栄養補助食品を提供したり、体調に合わせて、水分量も調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食事後の口腔ケアを行っている。月に一度、歯科往診に来てもらい、必要な方は見てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	夜間のテープ止めを使用している人も日中はトイレ誘導を行っている。毎日の記録でパターンは把握している。	利用者全員の排泄記録を残し、日常的に情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援に取り組んでいる。下剤等の薬の情報を表をつくる等、職員間で利用者の状況に合わせた支援につなげる支援を行い、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘にならない様にNSと連携し、水分量は調節したりマッサージをしたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	1人1人の体調をみながら希望も聞き、その人に合った時間帯で入浴をしていただいている。	利用者が週2～3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方も定期的な入浴につなげている。お湯を利用者毎に入れ替える取り組みや季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の取り組みが行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	食事後やその人の体調に合わせてベッドに横になってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	努めるよう努力している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	その人のできる事をやっていただき、役割がある人もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	今はコロナで行けていない。	感染症問題が続いていることもあるため、利用者の外出が困難になっており、現状は医療機関への受診による外出以外は行われていない状況でもある。季節や天候等に合わせた散歩の機会はあるが、現状は限られた範囲となっている。	利用者の外出が困難な状況が長期化していることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、利用者の外出行事等の取り組みが再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金はなるべく所持しないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話や固定電話がある人は自由に使ってみえる。その他の方は、1階の公衆電話を使用する事ができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		ホーム内は限られた広さであるが、7名の利用者がゆったりと過ごすことができる空間が確保されている。リビングの壁面には、季節感のある飾り付けや利用者の作品の掲示が行われており、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		居室には、利用者が家族の意向等にも合わせた家具類や好みの物等の持ち込みが行われている他にも、電話の開設を行っている方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、趣味を物を持ち込む等、利用者が居室内で思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。			